

都立晴海総合高等学校 令和5年度 (教科名 公民) 年間授業計画

教科：(公民) 科目：(倫理) 対象：(第3学年)

教科	教務	副校長	校長

使用教科書：『高等学校現代倫理新訂版』(清水書院)
 使用教材：自作配布物ほか

	指導内容 【年間授業計画】	科目倫理の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
4月	神話から哲学へ 古代ギリシャの世界観の変容を捉え、自然と人間の関係を見つめさせる。	ギリシアの時代やポリスに関する基礎的事項を確認した上で、万物の根源を探究する世界観や哲学の祖とされる人物の考え方を理解し、西洋思想の原初と位置づけて、哲学を学ぶ意義を導く。	神話的世界観から自然哲学への世界観理解方法の転換と、その始祖タレスらの哲学と呼ばれる理解と説明の思考について、適切な記述を選ぶことができる。考査	3
5月	ソクラテスの哲学 ソフィストの登場を取り上げ、ソクラテスの説いた知と生き方を考察させる。	ソクラテスの時代に関する基礎的事項(民主制の発達とソフィストの働き、相対主義の問題点)を確認した上で、「無知の知」やよく生きることを中心に理解する。ソクラテスが導いた結論(魂への配慮としての哲学)と弁明後の彼の死をたどり、ソクラテスが投げかける問題について考えさせる。	ソクラテスの「無知の知」(不知の自覚)についてわかりやすく説明することができる。ソクラテスの思想について、適切な記述を理解し、選ぶことができる。考査・課題	2
6月	プラトンのイデア論 理想主義的なあり方として、イデア論を取り上げ、概念や観念から哲学を理解させる。	真実在として定義されるイデアを中心に、プラトンの展開する普遍的真理や主義を理解する。概念や知的な枠組みを現実における自身の真理探究活動として扱えるようにする。哲学から政治と社会のあり方を考察するプラトンの哲人政治から、現実における哲学のあり方を考えさせる。	プラトンのイデア論とその中で扱われる概念について、適切な記述を理解し、選ぶことができる。考査	4
6月	アリストテレスの哲学 現実主義的なあり方として、四原因説を取り上げ、アリストテレスの考察や探究から哲学を理解させる。	アリストテレスによるプラトン批判を取り上げ、プラトンの立場を確認しながら比較し、世界のあり方を説明する違いを理解する。アリストテレスの形相と質料の考察と四原因による個々の実体や自然界の生成消滅を説明する原理を把握させる。ポリス的動物として正義と友愛の必要性を考えさせる。	アリストテレスの哲学について、適切な記述を理解し、選ぶことができる。考査	3
6月	キリスト教とユダヤ教 キリスト教の母胎となったユダヤ教の特色と独自性を理解させる。	ユダヤ教の思想をイスラエルの苦難の歴史とともに、その救済の根本となっている律法、ヤハウェへの信仰、一神教の宗教について理解させる。	ユダヤ教の根本となっている律法や信仰、一神教の宗教的特徴について、適切な記述を理解し、選ぶことができる。考査	4

	指導内容 【年間授業計画】	科目倫理の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
7月	キリスト教とイエスの思想 イエスの説く思想から世界宗教となったキリスト教について理解させる。	イエスの教えである神の愛と隣人愛を取り上げ、思想の中心と実践について理解させる。その上で、十字架刑後におけるキリスト教の成立とその後の展開について、教会の活動を中心に把握させる。	イエスの説いた愛の思想について、イエスの教えと実践を含めて適切な記述を理解し、選ぶことができる。キリスト教会の活動に関する基礎知識を問う設問に答えることができる。考査	4
7月	イスラーム イスラームの成立、その教えとイスラーム世界の展開を概観させる。	ユダヤ教とキリスト教の特徴と対比しながら、イスラームの『クルアーン』に明示されたアッラーの教えを取り上げる。その上で、ムスリムの生活規範であるシャリーア（六信五行）を手がかりに、世俗と宗教を区別しない宗教中心の生活について考えさせる。	イスラームの教えとムスリムの生活についての基礎知識を問う設問に答えることができる。考査	3
9月	古代インドの社会と思想、バラモン教、ヒンドゥー教 思想的な背景を概観するために、バラモン教の中心的な教義や古代インド社会を理解させる。	ヴェーダの宗教とウパニシャッド哲学を通してバラモン教とを取り上げ、人間の苦や普遍的な不安に対する思想と実践である輪廻とその解脱を題材に、仏教成立以前の古代インドの思想を理解させる。	ウパニシャッド哲学、バラモン教について、適切な記述を理解し、選ぶことができる。古代インドの思想における死生観について延べることができる。考査・課題	1
9月	仏教とガウタマの思想 縁起の法と慈悲を中心に、仏陀の悟りと仏教の人生観、世界観を概観させる。	ガウタマの悟りに至るまでの過程と悟りの内容を取り上げ、その教えと生き方である仏教の世界観、人生観について理解させる。その上で、仏教のその後の展開について把握させる。	ガウタマの説いた教えについて、悟りにいたるまでの過程を含めて適切な記述を理解し、選ぶことができる。仏教の世界観とその展開に関する基礎知識を問う設問に答えることができる。考査	2
9月	中国思想と儒教 諸子百家の時代背景を踏まえ、孔子の説いた仁を中心に、儒家の思想を理解させる。	古代中国における諸子百家の時代について基本的事項を確認し、孔子の説いた仁や礼の思想、徳治主義を理解させるとともに、東アジア共通の道德観や社会秩序に焦点を当て考察させる。	古代中国の諸子百家の時代に関する基礎知識と孔子の教えである仁と礼を問う設問に答えることができる。考査	1
10月	鎌倉新仏教の展開 仏教の受容と変容。新しい宗派を開き、独自の思想を展開した日本の仏教について、浄土や禅から社会の変化と仏教のかかわりについて理解させる。	わが国の風土や自然観を概観した上で、歴史的な社会の変化とともに、仏教を取り上げる。修行した僧侶たちが取り組んだ課題、問い直した仏教のあり方について、親鸞の浄土信仰と道元の禅から考えさせる。	日本の仏教者が新たに宗派を開いて説いた教義内容について、基礎知識を問う設問に答えることができる。考査	4

	指導内容 【年間授業計画】	科目倫理の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
10 月	近代科学の世界観 宗教改革やルネサンスを経て成立する近代自然科学について、ベーコンとデカルトの思想を取り上げ、合理的精神を中心に理解させる。	時代背景を確認した上で、ガリレイの観測と実験に基づく法則の発見に代表される近代科学の誕生を理解する。ベーコンの帰納法的方法による経験論、デカルトの方法的懐疑から導かれた演繹法による合理論を中心に近代哲学の論理や実証、真理の探究のあり方、機械論的自然観について考察させる。	近代科学の成立に貢献した人物たちに関する基礎知識を問う設問に答えることができる。近代哲学の合理的精神、論理や実証法について、適切な記述を選ぶことができる。考査	3
11 月	カントの思想 カントが説いた人間の尊厳や道徳を中心に、自律した人間について考察させる。	人間の認識とは自ら法則を制定する悟性の先天的能力によるとするカントの認識論（批判哲学）を取り上げ理解させる。人間の行為は自らの理性の道徳法則に従う自律的なもので、そこに人格の尊厳があることの考察に取り組みさせる。	カントの用いた人間の先天的能力の概念と認識論、道徳思想について、適切な記述を選ぶことができる。考査	4
11 月	自由と幸福 ヘーゲルの思想を取り上げ、自由と幸福、自己実現について、個人と全体との関わりについて考察させる。	カントの道徳的自由の学習を踏まえ、世界は絶対精神のあらわれで、歴史的発展は精神のはたらきであるにとらえたヘーゲルの弁証法という論理を理解させる。自由や自己実現は具体的な人間関係や制度を通じて実現される人倫の考え方を理解させたうえで、近代社会の考察に取り組みさせる。	ヘーゲル哲学の概念（絶対精神、弁証法、人倫）とヘーゲルの思想（倫理と法、近代国家）について、適切な記述を選ぶことができる。考査	4
12 月	功利主義 資本主義の成立を踏まえて、功利主義を取り上げ、ベンサムやミルの思想について概観する。	人間にとっての幸福や快樂について、経済や政治の発展と社会問題との関わりを理解させる。ベンサムの功利の原理「最大多数の最大幸福」やミルの人間の質の高さ「ナザレのイエスの黄金律」を功利の原理とした社会改革・社会形成の思想的特徴を理解させる。	ベンサムとミルの功利主義の社会変革の思想について、適切な記述を選ぶことができる。考査	3
1 月	現代社会を生きる 実存主義や社会主義、正義論を概観し、理性の再考、他者尊重や公共などについて現代社会を生きる人間のあり方について考える。	実存主義の人間の主体性回復を目指す哲学の学習から近現代の人間観の変容を理解させる。社会主義の学習から資本主義がかかえる問題を改めて理解させる。現代社会の不平等や経済的格差の課題を考察するために、「公共」や「正義」等のキーワードを取り上げて、人間が人間として生きるための1年間の学習を振り返りながら倫理の学習を総括する。	実存主義の知のあり方について、適切な記述を選ぶことができる。現代社会を生きるための課題としてのキーワードを正しく理解し、使用して自分の考えを述べることができる。現代社会を生きる人間を考察する論点について、適切な記述を選ぶことができる。課題	4